

喫煙率は「東高西低」

政府や企業が受動喫煙防止を進める中、自治体もたばこによる健康被害を減らすと、対策に躍起になっている。喫煙率は東日本が高く、西日本は低い傾向。専門家は「歴史的な背景のほか、自治体の取り組みの度合いが反映されている」と指摘する。

自治体の取り組み反映

2020年東京五輪・パラリンピックに向け、受動喫煙防止策を強化する法整備が急がれるが、いまだ実現していない。喫煙率が最も高かった北海道はたばこを吸いやすい環境を改めようと、受動喫煙防止条例の検討や実態調査に乗り出している。

厚生労働省が6月に公表した16年国民生活基礎調査では、喫煙率が高いのは北海道(24・7%)に続き、青森県(23・7%)、岩手県(22・6%)と東日本が並んだ。低かったのは奈良

研究に携わった札幌保健医療大の稲葉佳江学長は「おおらかな地域性のほか、開拓を推し進めた明治時代以降、女性も男性と一緒に屋外作業に精を出し、男女同等の権利意識が高いことも影響している」と分析する。

最も低かった奈良県では薬局で気軽に薬剤師に禁煙相談できる取り組みなどに力を注いできた。鹿児島県も全面禁煙に取り組み飲食店や喫茶店をホームページで公開している。

たばこ規制を訴える医師国際がんセンターの田淵貴大医師は「北海道や東北は人口密度が低く、屋外で作業する人が多い産業構造で、受動喫煙防止策が十分にできていないケースが多い。西日本は以前から喫煙率が低かったり、各地の対策が功を奏したりしている」と説明。対策を強化しないと地域差が広がると指摘する。

地域性？歴史的な背景？

都道府県別の喫煙率

順位	自治体	喫煙率
1	北海道	24.7
2	青森	23.7
3	岩手	22.6
4	福島	22.3
5	群馬	21.9
5	栃木	21.9
⋮	⋮	⋮
42	島根	17.7
42	香川	17.7
44	京都	17.5
45	鹿児島	17.4
46	奈良	17.1

※熊本は昨年4月の地震で調査結果なし。小数点第2位以下を四捨五入

喫煙率 2016年国民生活基礎調査によると、全国の喫煙率は19・8%。男性は31・1%、女性は9・5%だった。国立がん研究センターによると、男女ともに1995年以降は減少傾向にある。ただ、男性は2010年以降、減少がゆるやかになった。女性も50代で増加傾向だ。日本たばこ産業(JT)が7月に発表した17年の「全国たばこ喫煙者率調査」でも、男女合計の喫煙率は前年比1・1%減の18・2%。喫煙人口(推計)は110万人減の1917万人だった。